

3月17日

主教パトリック

Patricius

(385/390~461頃)

～アイルランドの守護聖人～

<人名事典などでの別表記：パトリキウス>

パトリックはアイルランドの守護聖人であり、非常に人気の高い人物です。しかし、生涯と業績についてはわからないことが多く、彼の自伝「告白」に少し触れられている程度です。

彼は、ブリテン（イギリス）生まれで祖父は司祭でした。また父は、役人をしているかたわら教会の助祭をしていました。

16歳のころ、パトリックはアイルランドの海賊に捕らえられ、奴隷として売られ、豚を飼う生活を強いられます。しかしその生活の中においても彼は、「異国において神は私の不信仰な目を開いてくださった」と神に感謝し、強い信仰を持っていきます。

奴隷生活が始まって6年がたった時、彼は故郷に帰れる夢を見ます。そして彼はそれを実現すべく、360kmを逃亡していきます。ついにイギリスの海岸に着いた彼は、通りがかりの船に乗り、故郷へと戻っていきます。

その後、彼は現在のフランスにあるレラーンスの修道院で25年間過ごします。その頃はまだ、自分をさらって奴隷にしたアイルランドを嫌っていましたが、次第にそのアイルランドの人々に対する救いが気になり、アイルランド宣教の使命を与えられます。



しかしその道のりは決して平坦なものではありませんでした。当時のアイルランドには魔術がはびこっており、キリスト教を拒否する彼らはパトリックを10回も逮捕しましたし、ときには暗殺も企てました。

パトリックはその中、2000人の司祭、200人の司教を叙階します。そして司教を修道院の院長としました。そして一般の信徒には修道士になることを勧めていきます。この教会と修道院の結びつきが、アイルランド特有の形態となっていきます。

パトリックはアルマーに大聖堂を建て、大司教になりますが、その時に自分をさらった海賊団のリーダーに、強く悲しい抗議の手紙を送りました。そこにはすぐに奴隷を解放しないと神の罰が下ると書きましたが、リーダーは無視します。その結果、リーダーは数日後に気が狂ったと言われていきます。

<特禱>

信ずる者の光、魂の牧者である全能の神よ、あなたは、その言葉によってあなたの羊を養い、その模範によって彼らを導くために、しもべ、主教パトリックを公会の主教に召されました。どうかわたしたちに恵みを与え、信仰を守り、その生涯に従うことができますように、主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン